



AKI

母親は幼稚園教育に何を期待するか

岸 本 弘

幼稚園ほど、学校と子どもの両親（特に母親）との関係が密接であり、従って母親の協力が望まれている所はないであろう。

これは極めて自然な事で、子ども達が家庭という云わば温室の生活から初めて学校という新しい一人立ちの生活に入っていくのであるから、そこには当然大きな適応上の問題が起って来る筈である。

この様な子ども達を幼稚園生活という集団教育のレールにうまく乗せて行くためには、幼稚園の先生方と母親との極めて注意深い又辛棒強い協力がどうしても必要となって来るのである。ところで母親の幼稚園教育（と云わず教育一般）に対する理解の度合は戦後とみに上昇してきたと云われている。

それではこの様に教育に対して深い関心を示して来たと言われるお母さん方は実際に子どもをどの様な理由から幼稚園にあげているのであろうか。又母親のこの様な期待は子どもが幼稚園にあがってから後も一貫して抱かれつつけられる様な類のものであろうか。あるいは又このような母親の抱く期待なり、希望は、幼稚園が子ども

を教育して行く場合の方針と合致するものなのであろうか。それとも幼稚園の教育方針と衝突する様な性格のものであろうか。このような点について考察を加えるために昨年、東京都内の十四の幼稚園の協力を得て園児の母親千四百人を対象に調査を行った。

[表 I 第]

1.	小学校入学の準備のために	50%
2.	集団教育の必要性から	31%
3.	内気で親に甘えて困るから	4%
4.	一人っ子末っ子のため友人がないから	3%
5.	買食い等の悪いくせを治すため	3%
6.	良い友人が得られるから	3%
7.	早期教育の必要性から	3%
8.	子どもの教育に自信がないから	1%
9.	子ども自身の意志から	1%
10.	工場商店街等の悪環境から守るため	1%
11.	親の義務感から	1%

(註1) これらの理由は可成り重なり合って表明されているが、より適切と思われる方に整理した。

この調査に対して解答を寄せた母親の数は八百五十人で解答率六割強であった。先ず第Ⅰ表は子どもを幼稚園にあげた理由についての調査を整理したものである。

次に第Ⅱ表は子どもの入園後、半年経った昨年十月に行つた調査のうち、子どもの変化についての母親の評価を整理したものである。

〔表 Ⅱ 第〕

1.	小学校の入学準備として大変効果をあげている……………24%
2.	社会的になり友達が出来た……………16%
3.	良い習慣、良いしつけが出来た……………13%
4.	情操が豊かになり成長してきた……………9%
5.	食事が進み健康になった……………7%
6.	遊戯や歌をよく覚えて好い子になった……………9%
7.	言葉が悪く乱暴になった……………13%
8.	見栄を張るようになった……………1%
9.	人のまねを好い悪いのくべつなくして困る……………5%
10.	うそをつくようになった……………2%

〔補表Ⅱ第〕

1.	子どもは好ましい変化を見せた……………80%
2.	良くも悪くもなかった……………15%
3.	余り変化なく失望した……………5%

又第Ⅲ表は母親の幼稚園に対する希望を整理したものである。

そこでこのような調査の結果を持って、それぞれの幼稚園に再び伺い、直接に園児の教育にあたっては園長及び先生方に会って色々とお話を伺ったわけであるが、その結果をも折りまぜて二、三の問題点について述べてみよう。

〔表 Ⅲ 第〕

1.	もっと字を教える等入学準備に力を入れて欲しい……………45%
2.	歌や絵がうまくなる様発表力を養って欲しい……………19%
3.	悪い言葉を使わない様注意して欲しい……………11%
4.	しつけをもっときびしくして欲しい……………7%
5.	完全給食を望む……………5%
6.	悪いくせにもっと注目して治して欲しい……………4%
7.	子どもを公平に見て欲しい……………3%
8.	クラス編成や始業終業時間を合理的に考えて欲しい……………3%
9.	通園の途中の交通にもっと気をつけて欲しい……………2%
10.	設備を良くし先生をふやせ……………1%
11.	長い眼で子どもの成長を見て欲しい……………1%

(註2) 解答を寄せた八百人のうち希望を述べているものは三百八十人である。

① 幼稚園の教育はもっと小学校入学のための準備教育をすべきであるという事について。先ずこの三つの表を見て直ぐに氣のつく事は、母親の関心が小学校入学の準備という点に集中している事である。

勿論現在では子ども達は総て学令期に達すれば、必ず小学校にあらなければならない様に義務づけられているのであるから、幼稚園教育もそれを予想して続いてくる小学校の教育と衝突したり、小学校で行われる教育に対して逆効果を与えるような教育をしないように注意しなければならぬ事は自明の理であろう。

そして母親として自分の子どもが小学校に入った時に人後に落ち

ないように柔な気持で学校の生活に乗って行けるように、又あわよくば人並みすぐれて良い成績をあげるようにと望むのは当然の事。

従つてこの点について非難されるべき点はないであろう。然しながらこのような母親の要望が現実の幼稚園教育に向けられる時、そこには幼児教育の立場からゆるがせに出来ない問題が出てきている。つまりこのような母親の期待の多くは第Ⅲ表でも明らかによろしく、実際には簡単な続け書き算数などの手ほどきを幼稚園に於て既に行うべきであるという事なのである。

これに対しては、現在では小学校に於てすらもその一、二年生時代はまだ幼児期の延長として遊びを中心とする生活、つまり学校という一つの社会生活への滑らかな導入という点に重点が置かれるようになってきており、ある小学校等では既に本格的な算数等の学習は少くとも四年生以後になってまとめて行った方がより効果的であるという説が現実にとり入れられているという例を先ず想起させる事が必要であろう。簡単な算数にせよ、又読み書きにせよ子ども達が必要としていないばかりか、受けつけようとしないうち、これに無理矢理につめこもうとするのは、まだ母乳のみで育てている乳児にすみやかな成長を期待するという間違つた親心から、無理矢理にオカユをつめこむようなもので消化不良を起すのは必定、害あって益のない事である。従つてこの点については子どもの成長を無視した母親のせつかな要求に対して、幼稚園の先生方から幼児期に

は幼児期独自の教育目的、つまり、幼児期こそは一人の人間の基本的となる性格形成が行われる大切な時期であるという事実をもっともつと知つて欲しいという要望が出ていた。

② 言葉が悪く乱暴になったという事について。次に第Ⅱ表と第Ⅲ表を見て氣のつく事は、幼稚園にあげてから子どもの言葉が悪く乱暴になったという考え方であろう。

これは大抵の幼稚園で大半の子どもについて母親の口から一度は表明される点である。これは一つには家庭という大人に守られた世界で使っていた言葉と子どもだけの世界で使われる子ども自身の言葉との相違の問題である。そして又色々な家庭や色々な家庭近隣の社会で用いられていた言葉が一举にはき出され、物珍らしさから直ぐにこれを吸収してしまう子ども達なのであるからある意味からすれば、子ども達の使う言葉の数がそれだけ豊富になった事にもなっている。又大人のとりすました言葉からの解放であり子ども達にとつてもつと解り易い、もつと意志の伝達の可能な言葉を獲得した事になっている場合もあるのである。勿論悪い言葉は排斥されなければならず又我々の国語が美しい情緒をたたえたものになるように心がけなければならぬ。それと同時に重視されなければならない事は、無意味な粉飾からときほぐされた簡潔な言葉の奨励であらう。

次に動作が乱暴になったという点についても多くの場合、今迄経験もしなかつた子どもばかりの集団生活に入つて、物珍らしさや嬉しさの余り、身を持す事が出来ないであばれたり、粗暴な行為に走

る場合も実際に多いのである。従つてそのような集団生活に対する好ましい導入の過程をお行儀の良い行為の強制に依つて出鼻をくじくような行為が母親にとつても喜ばしい指導方法であろうか。

乱暴といつても他人に危害を加えるような場合にはとりわけ注意深い指導が必要であるが、成長期に在る子どもが大人のようにおとなしくしていたのでは却つて将来が思いやられるのである。

所でここで一寸ふれておき度い事は、よく母親の中には誰々と交じわつたから悪くなつた、誰それとは遊ばせないように注意して欲しい等という要望を出す人がある。これには甚だ的はずれた見方をしている場合もあるが、的を射た適切な考えを表明している場合も決して少なくない。従つて幼稚園の日々の指導に於て甲には乙を近づけるようにし、丙には甲をなるべく近づけないようにすると云つた案配に、色々と子どもの交友関係を気を配つて行く事は、先生の大切な役割となつてゐる。ただここで大切な事は子どもの要求や興味に無頓着にある関係を強制する事に依つて、表裏のある子どもを作らないように充分に注意する事である。

③ もっと歌や絵がうまく歌えたり、書けるようにして欲しいという要望について。

これは小学校入学準備の頃とも重なりあふ事であるが、ここでもっと他の問題にふれてみよう。第1表からもうかがえるようにお母さん方の中には、最初は集団生活になれさせるためにとか、内気であるからというバクセンとした考えから子どもを幼稚園にあげて

いる人もたくさんあるが、その後の折にふれての參觀に依つて、お母さん方の考え方も変り、自分の子どもの絵が他の子どもの絵に比べて乱雑だとか、まとまつた絵を書いていない等という簡単な觀察から、自分の子どもを何とかして誰それのような絵が書けるように指導して欲しいという要望を出してくるものである。

然しながら一人々々の子どもについて云つても、生活経験の豊富な子ども貧弱な子ども、狭い家の中ばかりで育つた子ども、一人っ子、末っ子、更には周囲の生活環境をよく觀察している子ども、觀察したものを良く自分のものとしている子ども、していない子ども等々種種様々の生活経験を經てきているのである。

このきよな子どもの育てられた性格は色々の動作や絵や歌の歌い方等の一つ一つの中に色々な形で現れてくるのである。

従つて幼稚園の先生方の役割は、生活経験の貧弱なものには豊富な経験を、觀察力の足りないものには注意力を、積極性を欠いてゐる子どもには積極性を呼び起す事の出来るように適切な指導をとつて行く事である。この様な地味な日々の努力の集積が重なりあつて、その子どもの絵は成長し、望ましい性格が築れて行くのである。つまり母親の関心はともすれば書かれた絵、上手に歌える事、云いつけを良く守る事、その様な出来上つた結果ばかりに集中し勝ちで、そのような結果が出て来る過程を無視し勝ちである。成長期の子どもにとっては結果よりもその過程に目を向ける事がより大切である。大人は往往にして大人の眼で子どもを見ようとしてゐる。

④ しつけ教育について少しばかり。

戦後の混乱に依って日本伝統のしつけ教育がくずれ去り、自由放任主義の思想に依ってしつけ教育の面がなおざりにされてきたが、最近幼稚園に於ても再びこの面についての要望が母親の側から起つてきている。これは一つには一応の落ちつきをとり戻した社会があるまともな形式を要求してきている事に依るのである。この故に新しいしつけ教育への指針が速かに構成される必要に迫られている。然しここでも大切な事は、子ども達に外形の小綺麗さやエチケットを教える事よりも、自分達が一つの社会に生きている事、社会はお互の協力のみによって進歩して行くのだという基本的な要素を日常生活の中で体得させて行くように心掛けるという事があく迄も本道だという事である。母親の云いつけをよく守るとか、あれもしてはいけない、これもいけない、これはこうしなければならぬとかいような外からの強制も時には必要であるが、子どもが守れないような多くの事を子どもに無理矢理に約束させる事よりも、守れるような好ましい一つ一つの行動を子どもが成した場合、その行為の達成がその後の子どもの行動の指針や励みになるようにして行く事の方がより効果をあげるであろう。

⑤ 完全給食を望む声について。

小学校で完全給食を行っている点については、義務教育をより完全なものにするというような関係から相当の理由があつての事であるから、幼稚園の場合をこれと同等に論ずる事は間違ひであらう

が、子どもの好き嫌いを治したり、家庭の貧富の差を子どもに経験させないようにする為又それだけ主婦の負担をばく事が出来るという点からも非常に望ましい事には違ひないであろう。又既に給食を行っている幼稚園もある。然し子どもの成長の程度、家庭で温く保護されている幼児の性格等から見て、その好き嫌いを無視した急激な一律の給食が果して妥当かどうか、まだまだ周倒な研究や調査が必要だと思ふ。

腹をすかした子ども達が、母親心尽しのべんとうを頬ばる姿や、互におかずを見せ合つて語り合う姿等々、子どもにとっておべんとうの時間は最も楽しい一時であろう。然もこの様な瞬間が子どもの性質をうかがう点に於て又その家庭の教育状態を伺える点からも、子どもの指導にとって大きな示唆を与えて呉れる時でもある。

以上調査の中間報告とも云うべきものとなつたが機会さえ許せば幼稚園の先生方に対するインタビューの結果をもまとめて報告したいと思つている。尚参考のためにこの調査に協力して下さつた幼稚園の名前をあげれば、

【区立】 (千代田区) 永田町幼稚園・佐久間幼稚園。(台東区) 清島幼稚園。

【私立】 (目黒区) 若草幼稚園。(大田区) 光輪幼稚園・御嶽幼稚園。(渋谷区) 代々幡幼稚園。(世田谷区) ばら幼稚園。(豊島区) 雑司ヶ谷教会幼稚園。(板橋区) 城山幼稚園。(葛飾区) 明和幼稚園。(港区) 神の子クラブ。(八王子市) なかよし幼稚園 (国学院大学教員養成所)